和田東寺方周辺（一の宮、聖蹟桜ヶ丘、関戸）の地域史講演と文化財めぐり

30. 11. 1.（木）

関戸地域の文化財（遺跡）めぐり

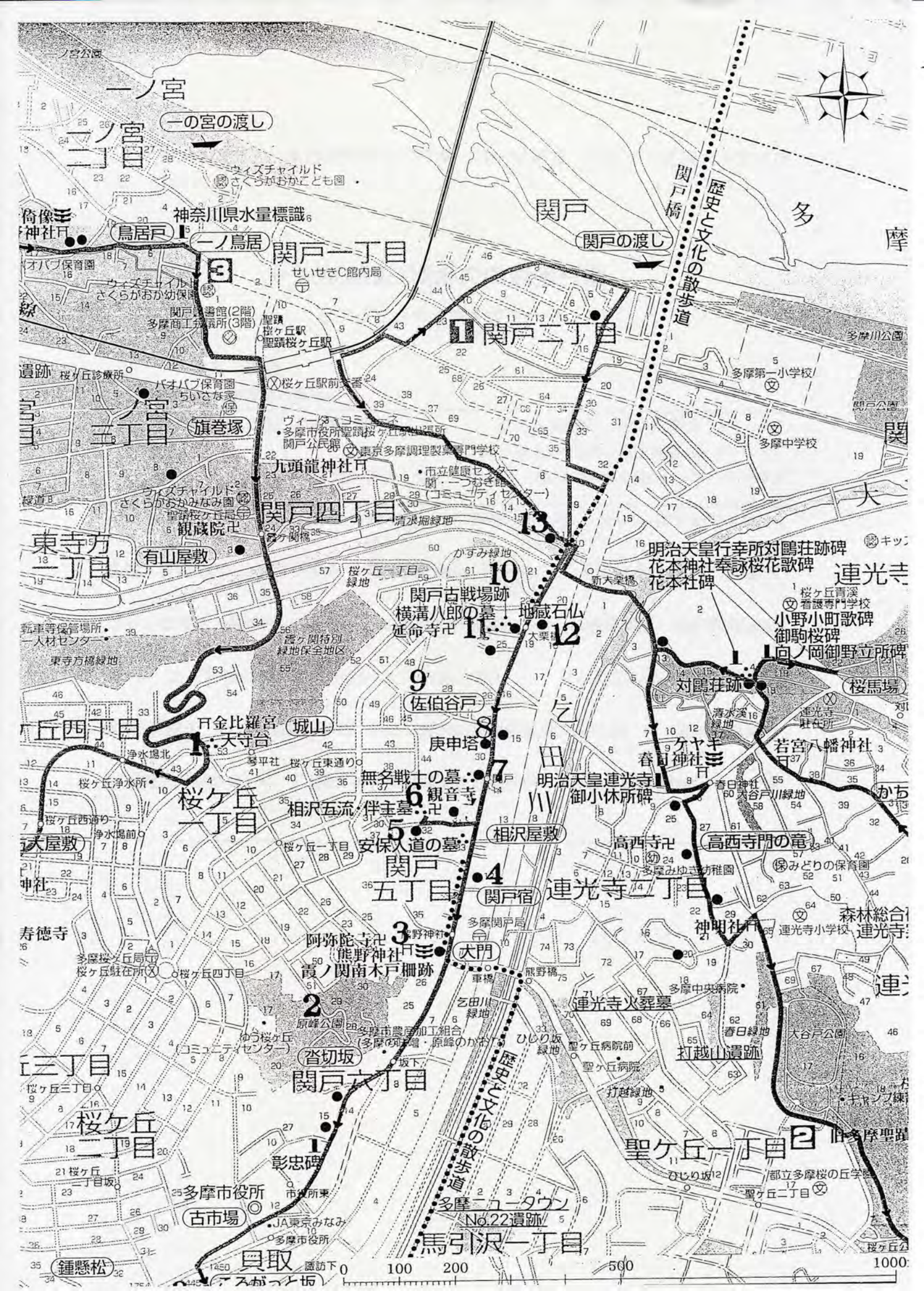
～中世の多摩を中心として～

諸富　文香
（多摩市教育委員会・学芸員）

[コース]　多摩市役所～聖蹟桜ヶ丘駅　　[探訪距離]　約 2.5ｋｍ
[テーマ]　旧鎌倉街道と関連の史跡を歩く
[キーワード]　旧鎌倉街道(古道)・古戦場・中世、近世の文化財の宝庫

[多摩市役所玄関入口前]　⇒　①屈切坂　⇒　②原峰公園・関戸城跡　⇒　③霞ノ関南木戸柵跡【都史跡】・熊野神社・石仏群　⇒　④秋葉山供養塔(常夜灯)　⇒　(⑤伝安保入道(道湛・道忍)墓跡・相澤屋敷跡　⇒　⑥観音寺・相澤五流、伴主墓・六地蔵・板碑群　⇒⑦無名戦士の墓　⇒　⑧庚申塔　⇒　⑨佐伯谷戸　⇒　⑩関戸古戦場跡・地蔵石仏　⇒　⑪伝横溝八郎墓　⇒　⑫伝徳川家康霊柩渡河待場・石祠・御尊柩御成道　⇒　大栗川・大栗橋　⇒　⑬刻経塔(道しるべ)・(阿弥陀三尊来航板碑【市有形】)　⇒［聖蹟桜ヶ丘駅］

メモ


一ノ宮
一ノ宮二丁目
一の宮の渡し
ウィズチャイルド さくらがおかこども園
神奈川県水量標識
鳥居戸
一ノ鳥居
関戸一丁目
せいせきC館内局
関戸
関戸の渡し
関戸橋
歴史と文化の散歩道
多摩
関戸二丁目
多摩川公園
多摩第一小学校
多摩中学校
関戸公園
関戸図書館(2階)
多摩商工会議所(3階)
聖蹟桜ヶ丘駅
聖蹟桜ヶ丘駅
桜ヶ丘診療所
桜ヶ丘駅前交番
パオパブ保育園
ちいさな家
旗巻塚
多摩市役所聖蹟桜ヶ丘出張所
関戸公民館
東京多摩調理製菓専門学校
九頭龍神社
市立健康センター
関・一つむぎ館(コミュニティセンター)
関戸四丁目
清水堀緑地
観蔵院
有山屋敷
東寺方二丁目
桜ヶ丘一丁目緑地
かすみ緑地
関戸古戦場跡
横溝八郎の墓
延命寺
地蔵石仏
新大栗橋
明治天皇行幸所対鷗荘跡碑
花本神社奉詠桜花歌碑
花本社碑
連光寺
桜ヶ丘青溪
看護専門学校
小野小町歌碑
御駒桜碑
向ノ岡御野立所碑
対鷗荘跡
桜馬場
清水溪緑地
連光寺駐在所
若宮八幡神社
ケヤキ
春日神社
春日神社
大谷戸川緑地
明治天皇連光寺御小休所碑
高西寺門の竜
高西寺
多摩みゆき幼稚園
みどりの保育園
連光寺二丁目
森林総合
連光寺小学校
神明社
連光寺
乞田川
相沢屋敷
佐伯谷戸
庚申塔
無名戦士の墓
観音寺
相沢五流・伴主墓
安保入道の墓
関戸五丁目
関戸宿
多摩関戸局
大門
熊野神社
阿弥陀寺
熊野橋
車橋
覆ノ関南木戸柵跡
原峰公園
多摩市農産物加工組合(多摩の郷土蔵・原峰のかおり)
ゆう桜ヶ丘(コミュニティセンター)
連光寺火葬墓
乞田川緑地
ひじり坂緑地
聖ケ丘病院前
聖ケ丘病院
打越山遺跡
打越緑地
多摩中央病院
春日緑地
大谷戸公園
桜ヶ丘西丁目
城山
天守台
金比羅宮
琴平社
桜ヶ丘東通り
浄水場北
桜ヶ丘浄水所
桜ヶ丘西通り
浄水場前
桜ヶ丘一丁目
桜ヶ丘二丁目
桜ヶ丘三丁目
桜ヶ丘三丁目坂
寿徳寺
多摩桜ヶ丘局
桜ヶ丘駐在所
桜ヶ丘四丁目
沓切坂
関戸六丁目
彰忠碑
多摩市役所
市役所東
古市場
JA東京みなみ
多摩市役所
鍾懸松
貝取
諏訪下
ごろがっと坂
馬引沢一丁目
多摩ニュータウンNo.22遺跡
歴史と文化の散歩道
聖ケ丘一丁目
ひじり坂
都立多摩桜の丘学園
聖ケ丘二丁目
旧多摩聖蹟
0
100
200
500
1000

関戸

天守台・城山

小山田回関
関戸惣図

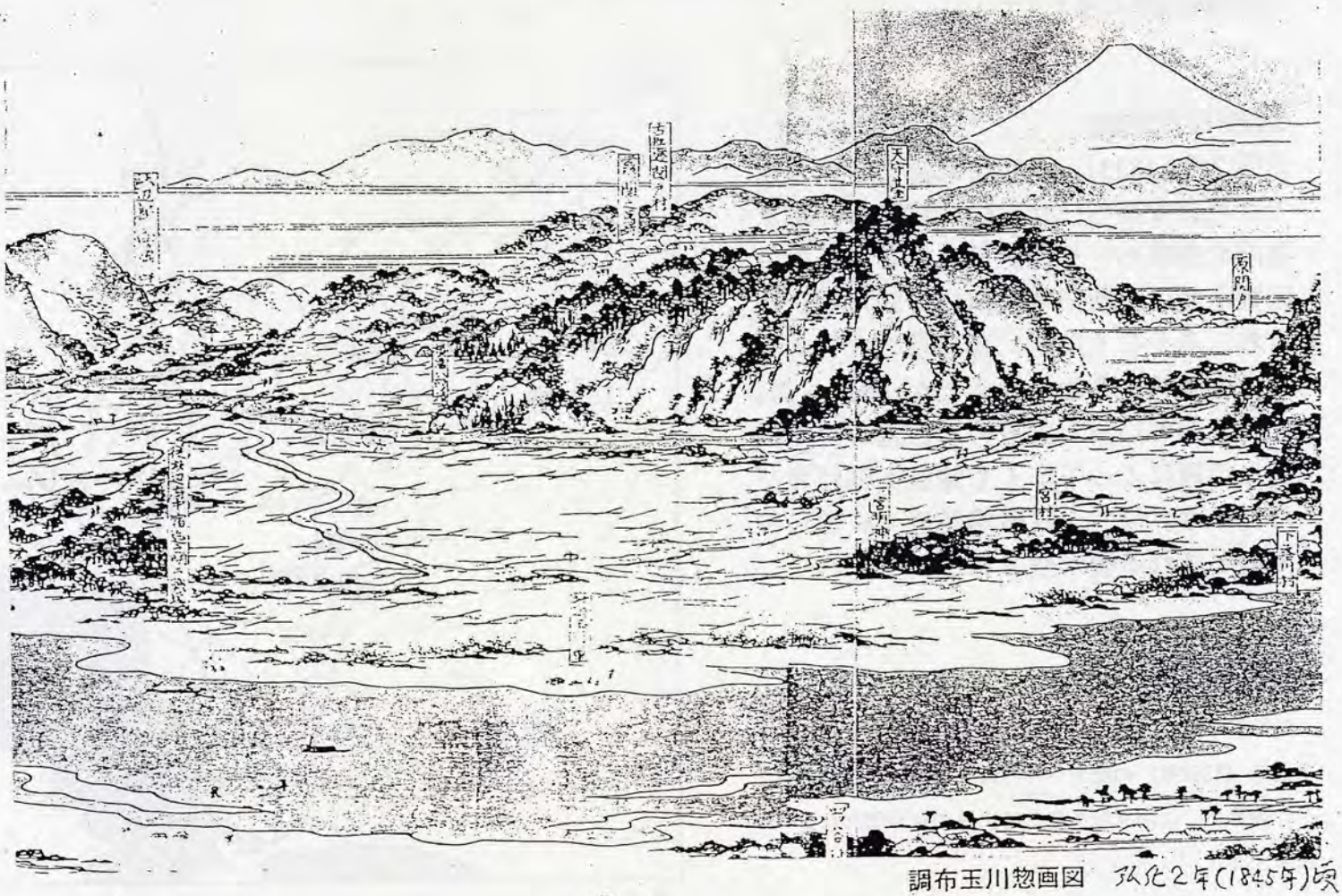
一之宮 小野神社

有山屋敷

刻経塔

(文) 斎藤幸雄・幸孝・幸成
(挿絵) 長谷川雪旦

『江戸名所図絵』
天保5年(1834)、7年(1836)



調布玉川惣画図　弘化2年(1845年)頃

という。源氏勢力の背景となった東国に向けては、鎌倉から府中、恋ヶ窪を経て上野、信濃へ抜ける「上ノ道」、二俣川を経て府中で「上ノ道」に合流する「中ノ道」、丸子、新井宿を経て常陸、下総に至る「下ノ道」と3本の主要なルートがあった。このうち、軍事戦略上最も重要視されていたのが「上ノ道」、後に新田義貞鎌倉攻めの進路となったルートである。「上ノ道」が多摩丘陵（現多摩ニュータウン付近）を下って多摩川に交わる関戸（現聖蹟桜ヶ丘付近）の地には、建暦3年（1213）木柵の関所が設けられた。これは、三代将軍源実朝の死後、幕府を掌握した北条一族が、この地を対東国防衛上の要衝と認めて設置したものである。現在、その関所跡といわれる「霞ノ関南木戸柵跡」（都指定史跡）が熊野神社境内に残されている。

旧鎌倉街道散歩

小野路・府中路

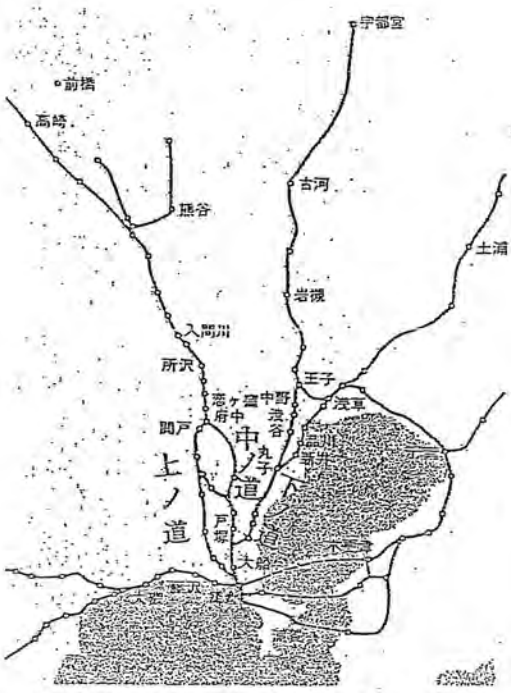
「いざ鎌倉」で知られる鎌倉街道は中世の軍路。多摩川沿岸の関戸・分倍河原（ぶばいがわら）は、天下分け目の合戦の舞台となった。

鎌倉街道

源頼朝によって鎌倉幕府が開かれると、それまで諸国の国府間を結んでいた官道の多くは幕府の手により再整備され、鎌倉を中心として放射状に伸びる「鎌倉街道」が成立した。この呼称は江戸期のもので、古くは「鎌倉往還」と呼ばれたという。

「いざ鎌倉」でお馴染みのこの街道は、緊急時には軍道となる。そのため諸国の武士が最短距離で馳せ参じられるべく、街道は可能な限り一直線に設置された

東京「歴史と文化の散歩道」



鎌倉街道要図（参考：吉川弘文館刊『国史大辞典』）

◎関戸古戦場跡

元弘3年（1333）、多摩川北岸の分倍河原では巧みな待ち伏せ戦術で圧勝した鎌倉幕府北条軍も、その翌日には三浦義勝の応援を受けた新田軍に南岸の関戸を奇襲され、あえなく敗退。幕府軍の大将北条泰家も絶体絶命かに見えたが、横溝八郎、安保入道といった泰家の忠臣達の身を挺した活躍によって辛くも鎌倉へ逃げ延びたという。現在、古戦場跡近くに彼らのものとされる墓が残されている。

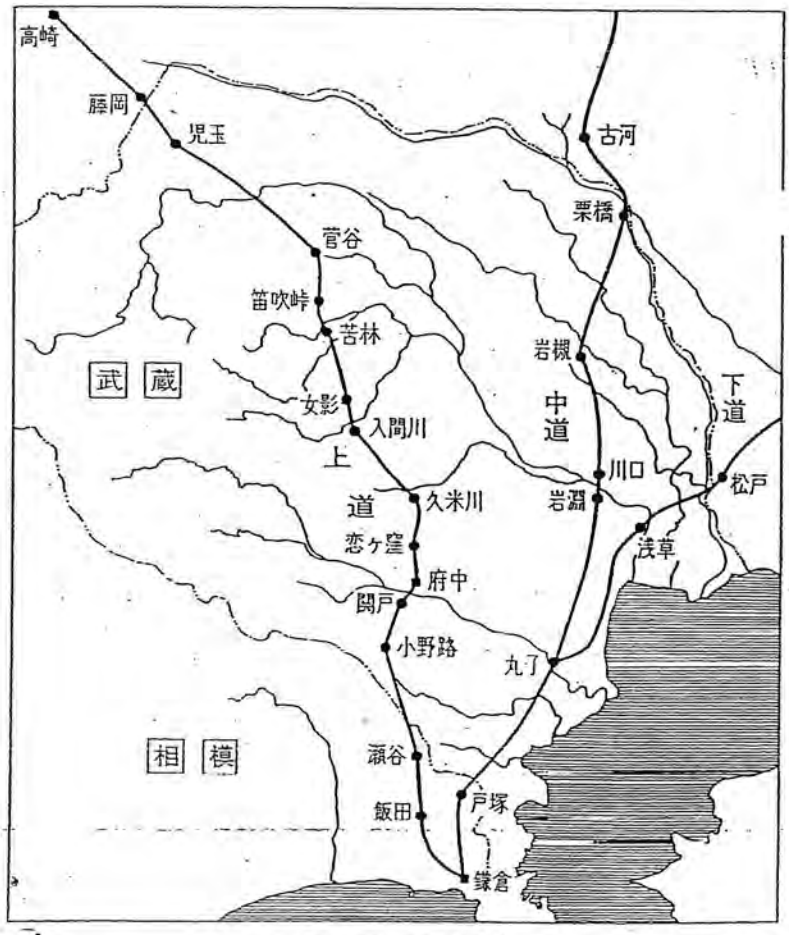
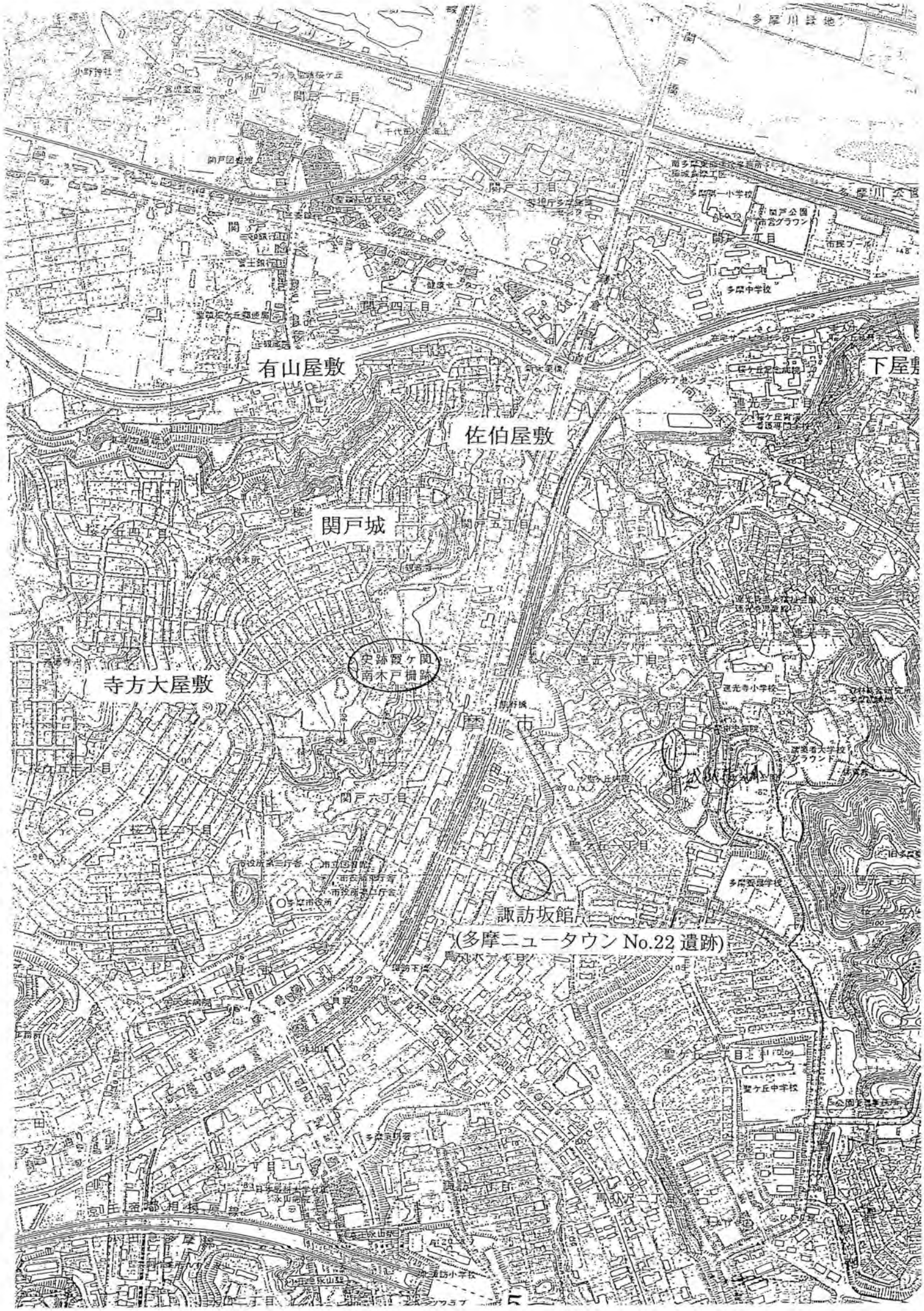


図5—29　鎌倉街道

○沓切坂（くつきりざか）

元弘三年（1333年）の分倍河原の合戦の時ないし、正平七年（1352年）の鎌倉への打入りの時に、新田義貞（にったよしさだ）か子の義興（よしおき）が、この急坂を登る時に馬の沓が切れたことに由来する。


有山屋敷
佐伯屋敷
関戸城
寺方大屋敷
史跡関ヶ関
南木戸掘跡
諏訪坂館
(多摩ニュータウン No.22 遺跡)

[87] 関戸城

[所 在 地] 多摩市桜ヶ丘1丁目

[占 地] 山城

◎北方 600mに多摩川が東流し、西に百草の山塊、東に連光寺向ノ丘の山塊があり、各々の間に大栗川、乞田川が北流する半独立状丘陵の北端部。

◎西方 1,200mに百草城、東方 3,200mに大丸城がある。

◎山頂より南南東 500mに都の指定史跡「霞ノ関址」があり、鎌倉街道上ノ道が通る。

[現況／遺構] 山林、住宅地／一部残存

◎かつて天守台といわれた高台は現在の金毘羅宮の東方 80m程の高所にあったが、住宅地造成(昭和38年頃から)で削られ、現在は幅 2m程の細尾根としてしか残っていない。

◎その高所の東方 50mの尾根上に堀切と思われる段差を確認した。

◎東西に焼く 300m続く尾根上はかつて松が並木状に生育していたが、今はほとんどない、北側にザレ状に崩壊する崖が数多くあって一部はコンクリート養生しているものの、尾根筋の消滅が著しい。北側の崩壊斜面にわずかに細尾根として残る部分に若干の削平段が見られる。

◎金毘羅宮の西方 300mの大栗川を見下ろす崖上にわずかに残る緑地帯があり、曲輪状の平地と塁状物の残欠が確認された。

[歴 史]

◎建暦3年(1213)に鎌倉幕府が関戸に新関を設置したという記事があり、またそれ以前の平安時代から俵藤太秀郷が平将門を阻止した「霞ノ関」があったというが定かではない。(※近年、新関は新開とする説あり)。

◎新田義貞鎌倉攻めの際(元弘3年・1333)には分倍河原・関戸両合戦の主舞台となり、勝利の後、関戸にて新田軍は一日逗留している(太平記、梅松論)。この際に当該地の物見台が利用され、以降は天守台と言われているという。また秀吉の関東攻めのときの物見とも言われる。

◎その後の中先代の乱、立川原合戦、上杉禅秀の乱など、多摩川沿岸の府中周辺を通過する合戦ではそのたびに戦場となったという。

[所 見]

◎主要部は天守台よりも若干高所にある浄水場付近(桜ヶ丘1丁目と4丁目の境)と見ることもできるが、宅地開発で遺構はまったくない。

◎天守台周辺も南側の宅地開発、北側の崩落で縄張りの確認は困難を極める。

[文 献]

『新編武蔵風土記稿』、『江戸名所図会』、『武蔵名勝図会』、『武蔵野歴史地理』、
『多摩町誌』、『多摩市史』

[調査履歴]

[摘 要]

◎縄張り図の番号説明・・・a＝天守台の一部(残存)と堀切、 b＝西方 300mの曲輪と土塁状物

[85] 佐伯屋敷

伝佐伯屋敷。16世紀小田原北条氏の家臣で、霞ノ関を支配した佐伯市助道永の館が在った所と伝えられている。調査なし。

[所 在 地] 多摩市関戸5丁目

[占 地] 丘陵城館

◎北に多摩川、東に支流乞田川が北流し、関戸城址の半独立山塊(現・桜ヶ丘住宅地)が北東に突き出た辺りの支脈の尾根の先端部に位置する。

◎西側の山頂一帯(裏山)が関戸城、南方500mに霞ノ関関所跡(都指定)がある。

◎鎌倉街道上ノ道に面した要害の地であり、関戸古戦場の中心地でもある。

[現況／遺構] マンション敷地、畑地、住宅地／一部残存

◎聞き取りにより、佐伯谷戸内の延命寺の南方150mの山の中腹の平地が伝承地であることが判明した。

◎鎌倉街道の小山酒店の斜め向いにあるダイヤモンドマンションと、その裏手の山の高台平地が佐伯屋敷で、鎌倉街道から比高差 20m程の高さに現在も畑地(20m×20m)として、平削地が残っている。かつてこの平地はマンションの方にもっと広がっていたと言われ、最前部はさほど高くなかったとのことである。

◎この畑地の南東角には若干の曲輪状の段差が見られるものの屋敷地としては畑のある平地の面積はさほど広くなく、かつては一段低くなって残る曲輪が広がっていた場所か、畑地の上の民家の付近に屋敷があったとも想像される。

◎畑地の南側の縁辺部から谷筋へ降りる道が腰曲輪状に造られ、若干の土塁状物が見られる。

[歴 史]

◎戦国時代に後北条氏の氏康から氏政までに仕えたという佐伯市助道永は豊後の出身で、鎌倉街道上ノ道にある関戸の関所の監視役として当地に派遣され、佐伯谷に居住したという。

◎道永は、永禄12年(1569)2月3日に奥州で討ち死にし、その子孫の三河守道世、和泉守道安がその後を継いだ。

◎関戸城の西側斜面にある寿徳寺は、創建(明徳元年・1390)後に衰退したが、この佐伯市助道永が永禄年間(1558～1570)に再建し、曹洞宗に改宗。持仏の十一面観音を本尊として安置した。

[所 見]

◎恐らく有山源右衛門らに経営させていた関所の監視役として当地に赴任してきた道永は、関戸宿の中心域である当地に住んだものと思われ、軍事的施設である関戸の要害であるだけに一段高い場所に居宅を置いたのだろうか。

◎また、そこから腰曲輪状の出入口の前に出れば関戸城の天守台への道があり、山頂を西に越せば寿徳寺の寺方大屋敷にも続いている(この道は昭和37年頃まで現存していた)。

◎延命寺の辺りもこの道から分かれる小道でつながっていたことが考えられる。

◎出入口に見られる土塁状遺構はそうした関戸城主要部への重要な道からの侵入を防ぐための工夫かとも考えられる。

[文 献]

『新編武蔵風土記稿』、『江戸名所図会』、『武蔵名勝図会』、
『多摩市史』

[調査履歴]

[摘 要]

観音寺とは

真言宗豊山派、本尊は聖観音菩薩の木造の座像。関戸地区を中心として、約70戸の檀家があります。開山開基は不明ですが、寺伝では、建久3年（1192）に唐の僧が観音像を安置して一庵を立てたことがその始まりとされています。慶長14年（1609）に没した増繁（ぞうはん）が、慶長3年（1598）に堂宇を再興したと伝えられ、さらに天和2年（1682）に没した宥清（ゆうせい）が初代と数えられています。現在の住職は16代目です。④より

明和年間（1764-1772）に、関戸の大火によって観音寺も類焼してしまい、現在の本堂と庫裏はその直後に建立されたものです。本堂は昭和47年（1972）に鉄筋に改築されています。

宝暦9年（1759）から始まった武相三十三観音第七番札所、多摩川新四国八十八ヶ所第十六番札所、多摩川観音第十二番札所にそれぞれ当たっています。

)観音寺　真言宗豊山派。本尊は聖観世音菩薩。創建は未詳だが、建久3年(1192)に唐の僧が観音像を安置し一庵を建てたのが初めという。本堂のそばに六観音がある。墓地には、関戸村の名主で、絵画・造園・挿花に有名な相澤五流・伴主らの墓がある。（ℓ関戸）①より

熊野神社

（境内に「伊勢山神社」・「神明社」を合祀、鳥居の脇に「地蔵」を祀る）

和歌山県熊野三社を、勧請したもので、創建は延徳元年（一四八九）、関戸と貝取の境に建立されている。

＜氏子組織＞

関戸六十軒が戦前の氏子であった。そのなかから氏子総代二名が選ばれた。この二名は、カミの二つのコウジュウから選ばれるのが慣例になっていた。その後、三名になり、シモのコウジュウからも出るようになった。現在は、神社委員二十人が選ばれ、そのなかから総代一人を選出している。主な仕事は祭りに関するものである。

そのほか二名の「月番」がおり、祭りの世話にあたった。月番は、毎月ごとに輪番制で各家を回り、祭りの世話のほか、伝達事項のフレを行うムラ役員である。

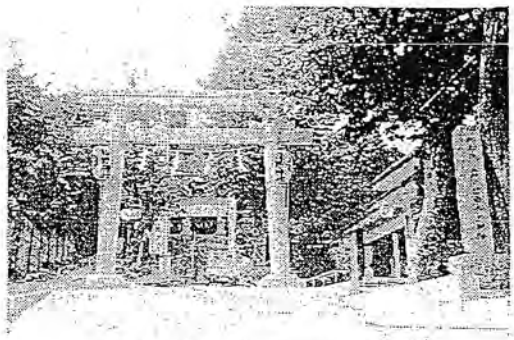


写真1－2－1　熊野神社の鳥居

神社の倉庫には、幟、太鼓、神輿、子供神輿、にぎり飯をいれる器などが保管されている。この費用には、ムラの共有地の売却金の一部があてられた。太鼓には「昭和三年三月　御大典記念関戸氏子中」の銘がある。神輿は昭和五十三年に建立したものと、「昭和五年建」のものがある。子供神輿も二基保管されている。

＜祭日＞

現在の祭日は、多摩市域の神社祭日が統一されたため、九月の第二日曜日であるが、かつては九月二十九日であった。祭りのおりには新旧の住民が一体になり、神輿を担ぎ、関戸中を練り歩く。

②より

)熊野神社　関戸村の鎮守。祭神は泉事解男命（みづごとわけおのみこと）・速玉男命（はやたまのみこと）・意富加牟都美命（おおかむつみのみこと）。延徳元年（1489）年に創建。熊野比丘尼が関東から東北にかけて活躍し、熊野神社勧請が盛んだった頃といわれている。参道脇には都史跡霞ノ関南木戸柵跡がある。①より

多摩ニュータウン No. 22 遺跡――多摩市聖ヶ丘 1 丁目(1-3)から馬引沢 1 丁目(1-13)一帯。乞田川をはさんで、鎌倉街道上道やその街道沿いの「霞ノ関(南木戸柵跡)」の対岸にある鎌倉時代の遺跡。2 間×5 間の庇をもつ母屋と考えられる掘建柱建物跡や井戸、工房跡、倉庫等の遺構と共に、兜の鍬形(先端部)(野沓の可能性もあると言われている。野沓=下鞍の切付の下縁に付けた細長い金具)や和鏡、白磁・青磁等の中国産陶磁器等の注目される遺物が発見されている。

建物跡の遺構、出土遺物等から鎌倉時代前半の頃の武士階級の館跡と考えられている。位置的にも霞ノ関を見下ろす高台にあり、関所と関連した武士階級の居館と考えられる。

多摩の歴史

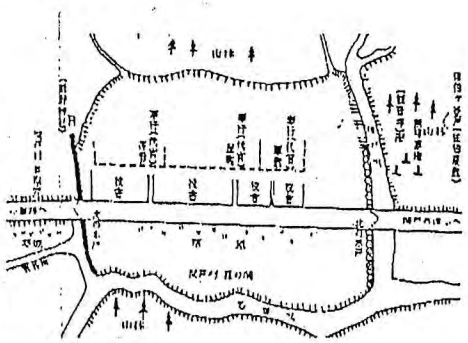
シリーズ❹ 中世（もののふ）
～武士の栄華盛衰～

多摩市史談会　山﨑和巳

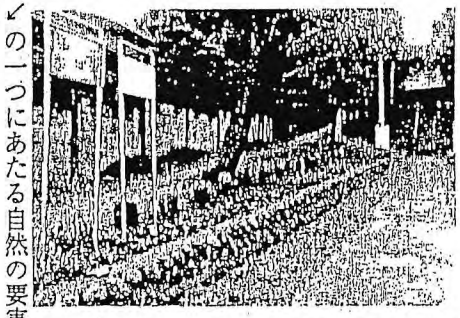
旧鎌倉街道沿いの史跡
―「霞ノ関南木戸柵跡」―

「いたづらに名をのみとめて東路の霞の関も春ぞ暮れぬる」（よみ人しらず『新拾遺和歌集』）、「別れ行く春の霞の関守も過ぐる日数をとどめやはする（従二位宣子『新千載和歌集』）。これらは、鎌倉街道上道（かみつみち）、多摩市関戸にあったと考えられている霞の関を詠んだ歌です。霞の関は藤原定家・慈円等数々の歌人等に歌枕として詠まれ、また書物に登場します。このような東国に行った事もないような京人にまで知れわたった関なのです。

多摩丘陵を南北に縦断するこの鎌倉街道は私たちにとって最も身近な道であると同時に、変貌した多摩丘陵においても、街道沿いには中世武士（もののふ）の栄華盛衰の歴史とロマンを示す史跡や地名が現在でも数多く残されています。その代表がこの「霞ノ関南木戸柵跡（かすみのせきみなみきどさくあと）」です。


●霞の関　想像図（「多摩町誌」より）

霞の関は多摩丘陵北の出入口の一つにあたる自然の要害の地に設けられた関所跡です。


●東京都史跡「霞ノ関南木戸柵跡」

昭和三五年、発掘調査により関所の南木戸と推定される、径約二五センチの柵列穴跡が約四五センチ間隔で十六カ所発見されました。現在は熊野神社境内参道に並行して、枕木により復元されています。この関の設置は建保元年（一二一三年）とも言われ、昭和三六年に東京都指定史跡になっています。関戸の地名もここに由来すると言われています。霞の関の名称は、一説に古代、馬が関外に出るのを止めた所で、鎌倉期に人の関となり、掠（かす）みが関が転化した。また、霞＝水辺や川谷等の水の潤う土地。カスミ＝網を張って何かを捕らえるものとの説も有ります。

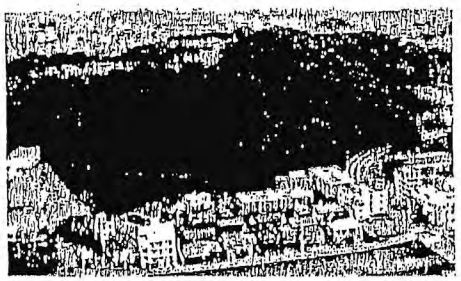
また、この南木戸に対して北木戸が観音寺南側にあったとされて、その間に役人の庁舎や屋敷があったと推定されています。南北木戸とも、西側丘陵裾から東側の乞田川岸に至るまで直線的に設置されていたようです。

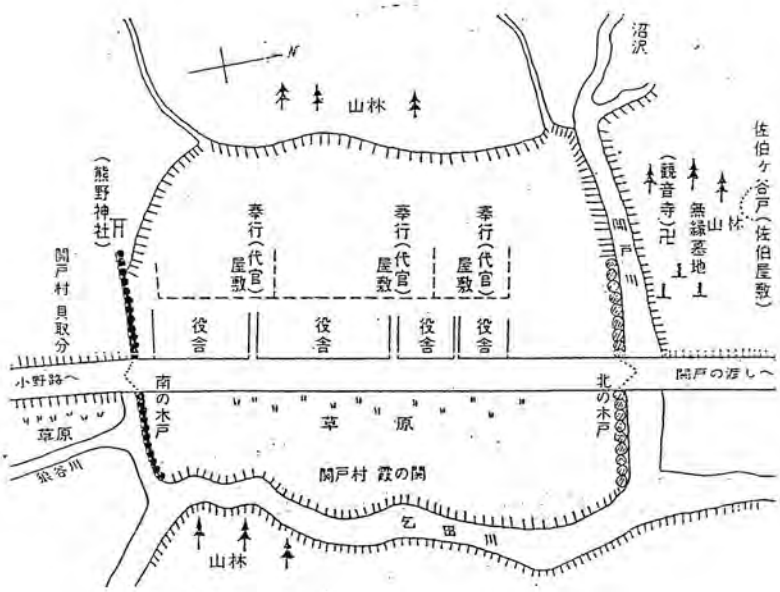
霞の関は、関銭を徴収する事以上に、東国防衛上の要衝として軍事的拠点であったと考えられます。さらに、武蔵入出国のランドマークとしての意味合いもあったのかもしれません。このため、歌人等に東国・武蔵の象徴として歌に詠まれたのでしょうか。

そして、関は元弘三年（一三三三年）五月十六日、倒幕の新田義貞軍と幕府北条泰家軍との関戸合戦の際、背後の物見台的城砦施設としての天守台・城山と共に、鎌倉幕府最後の「柵（とりで）」となったのです。

まだ見ぬ、人伝えに聞く東路の関。遺跡に立つと鎌倉歌人の声や武士の雄叫びが聞こえてくるようです。

遺跡見学：聖蹟桜ヶ丘、永山、多摩センター駅から市役所経由バス、関戸郵便局下車徒歩二分。熊野神社境内。


●天守台・城山全景



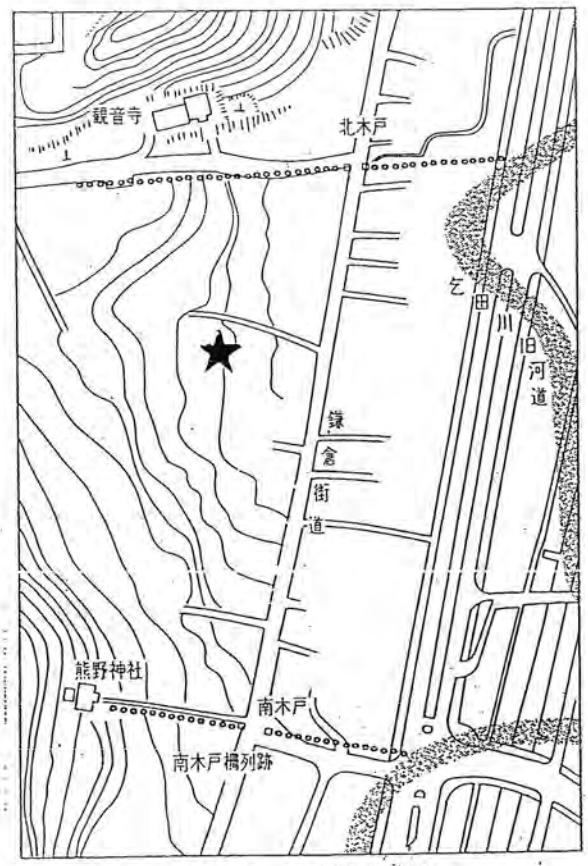
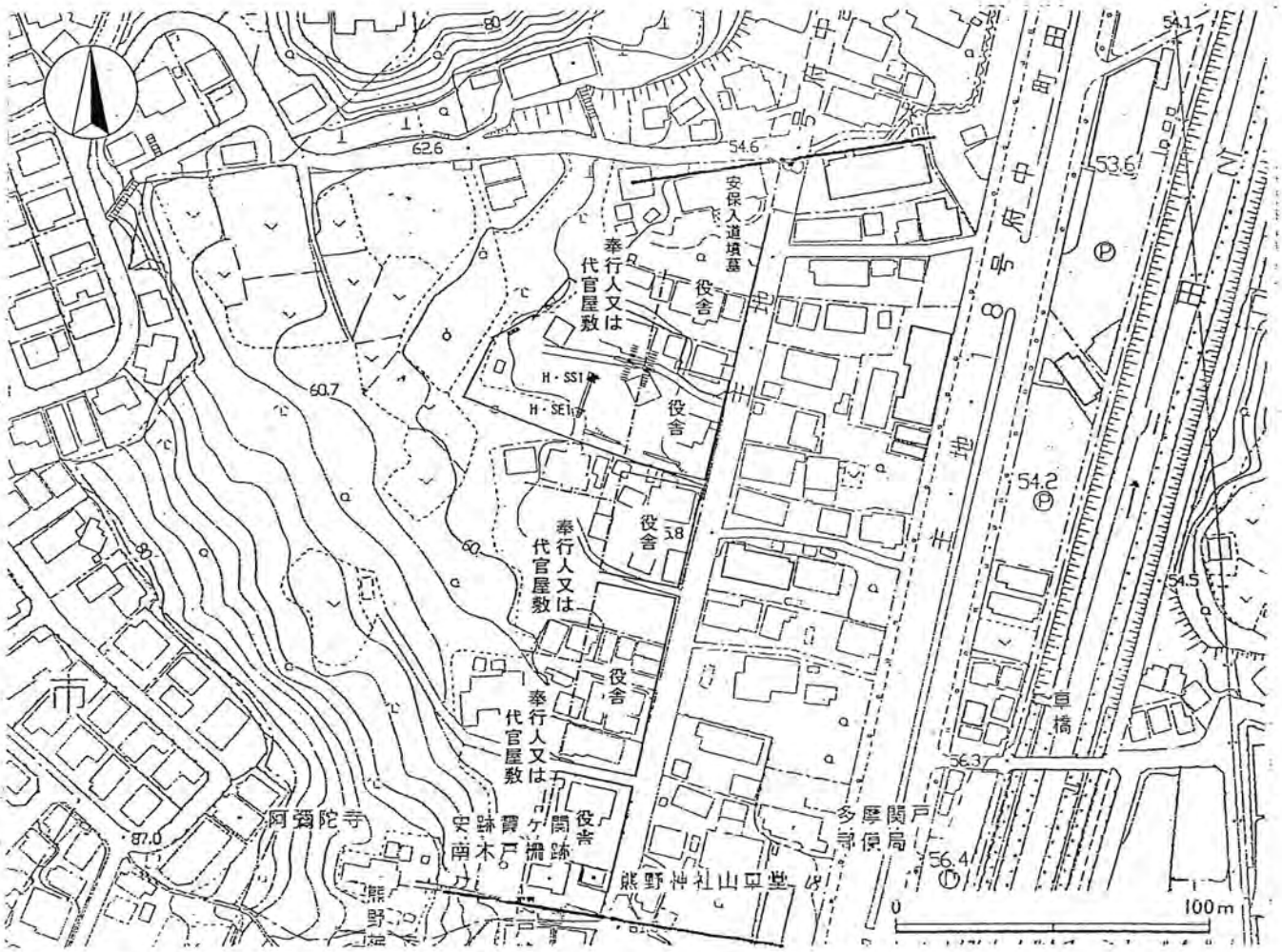
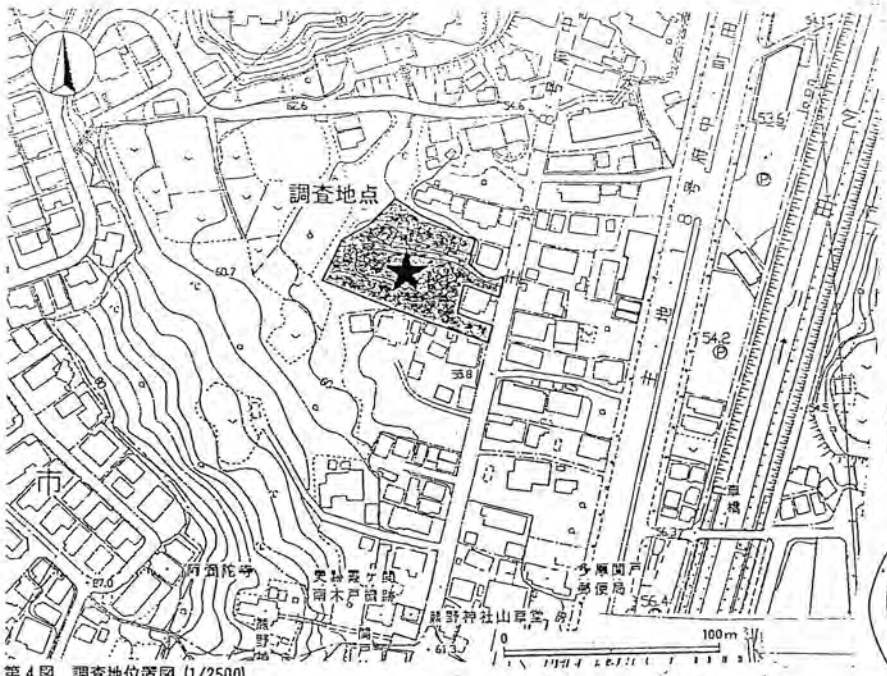


図5—33　関戸柵列想定図
菊池山哉（1962）をもとに作成。

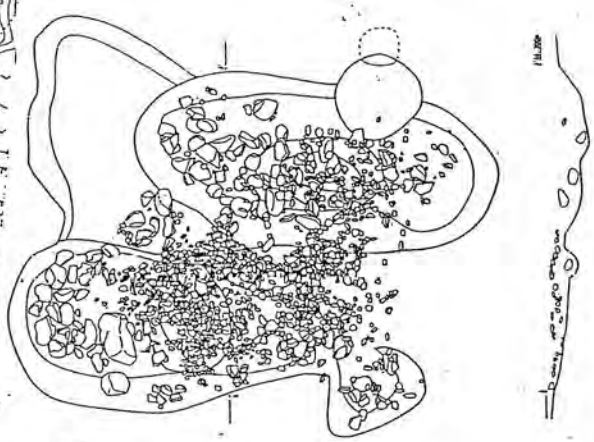
★ 調査地点

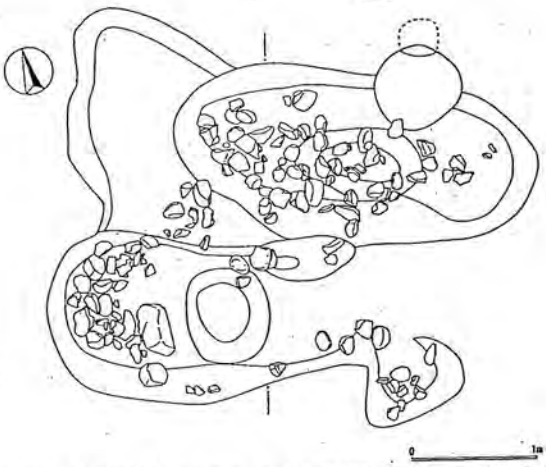


第14図　霞ノ関跡復元図（菊池1962を基に作成）

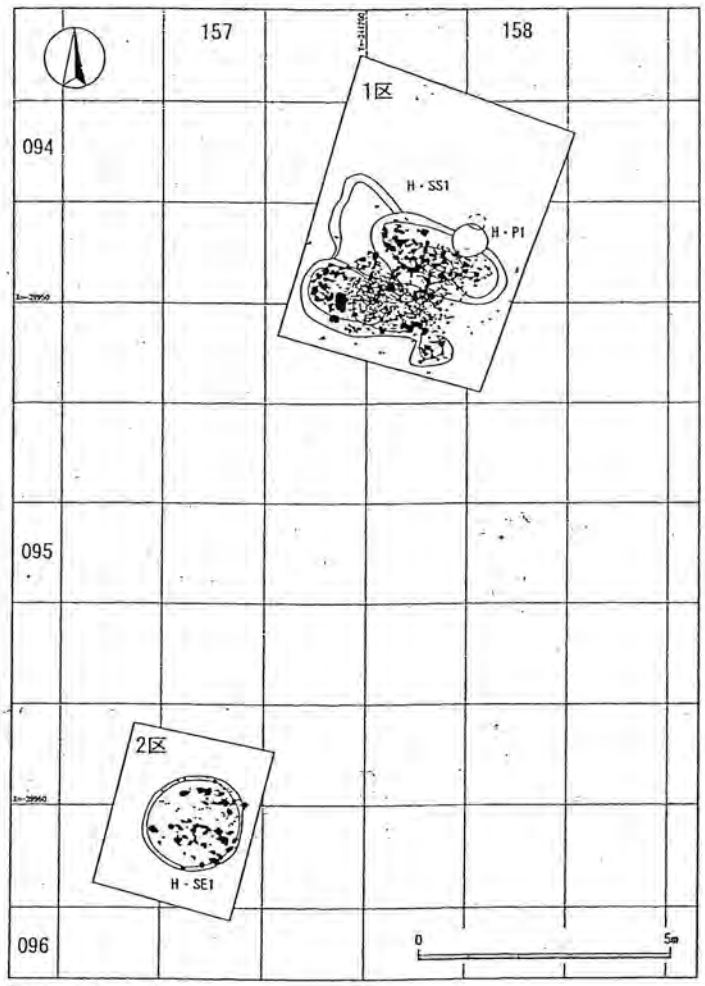


第4図　調査地位置図 (1/2500)

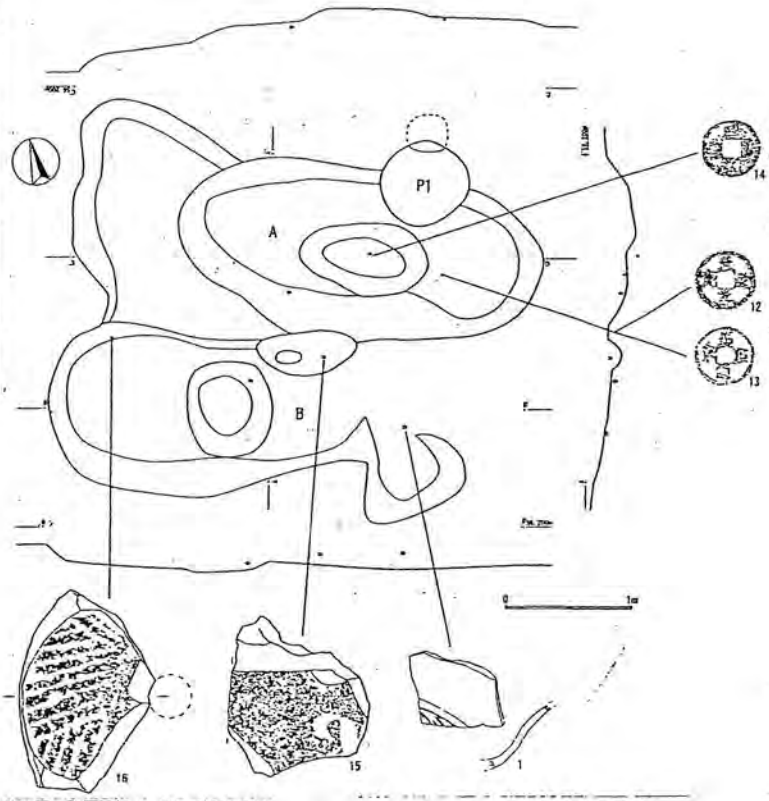




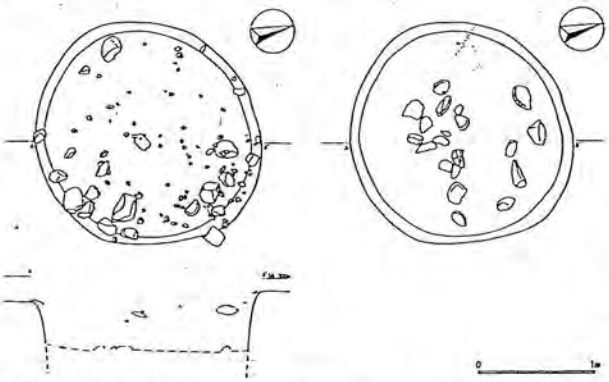
第7図　積石遺構 H・SS1 実測図　上；検出状況平・断面図、下；石組平面図



第6図　調査区全体図 (1/100)



第8図　積石遺構 H・SS1 完掘実測図



第10図　井戸 H・SE1 実測図　左；検出状況平・断面図、右；完掘平面図

——ウォッチング・メモ——

○刻経塔（大栗橋際）

天明三年（1783年）。右ふちゅう道、左八わうじ道と書かれた道標。江戸名所図絵・関戸惣図の中にも描かれている。施主は相沢五流の父、相沢了栄。

○関戸古戦場跡

元弘三年（1333年）五月十六日、幕府を倒すため兵を挙げた新田義貞軍と、幕府北条泰家軍とが合戦を行った場所である。対岸の分倍河原の合戦の後、退去する幕府軍を追って関戸天守台や観音寺周辺で戦いがくりひろげられた。この戦で幕府軍は敗れ、鎌倉幕府が滅ぶこととなる。この時戦死した幕府軍の将横溝八郎、安保道忍、さらに無名戦士などの墓が今もなお付近に残っている。なお、関戸合戦の死者の供養会が毎年観音寺で行われており、横溝八郎の子孫（桜ヶ丘在住・高宮春雄氏）らも出席している。

○庚申塔

庚申とは——十干と十二支の組み合せで、60年目か60日目に廻ってくる年・日の名称。この庚申の日に人々が寄り合い、信仰が行われた。その寄り合いや個人が供養・記念のために建てたのが庚申塔である。申がサルの意味であることから、猿が彫られるようになった。

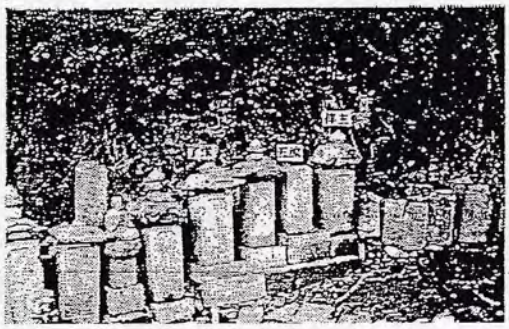
この庚申塔は寛文十三年（1673年）造立で、市内最古。

生花などにすぐれた才を発揮した。特に、生花では允中流という一流派を開き、三多摩に最初に生花を導入した。

また、五流・伴主で忘れてならないのは、調布玉川惣画図(表紙・多摩市指定有形文化財)という絵巻物である。江戸時代の多摩川沿岸の風景を描いたもので、奥多摩の源流から羽田付近までが描かれている。長さ約11ｍに及ぶ、絵図である。絵図は、五流が前後２回、７年間かけて約140kmにおよぶ多摩川の風景を写したものを、当時の有名な風景画家長谷川雪堤に清写させ、五流の子伴主が文章を付けて完成させたものである。

なお、この絵図を多摩市立図書館で復刻し、桐箱入りで頒布している。領価22,000円。

現在、五流・伴主の墓は観音寺の一角に有り、静かに眠っている。



○六観音（観音寺前）

天明元年（1781年）造。市内で唯一の六観音で、一般にも珍らしい。施主のうち相沢了栄は五流の父。

～多摩の生んだ江戸時代の文化人～

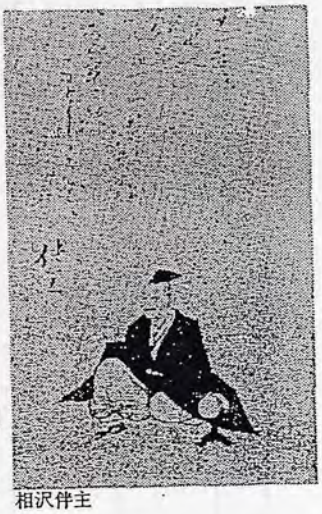
○相沢五流、伴主

相沢五流、伴主父子は、多摩の関戸で生まれた江戸時代後半の著名な文化人である。

五流は絵画や造園・生花などにすぐれ、特に絵画は、三多摩最初の狩野派地方画家であった。その絵は多数あったが、1768年の関戸村の大火でほとんどが焼けてしまった。現在残っているのは、関戸の旧金比羅社板額武者絵など、わずかである。

伴主は五流の子で、本名を嗜山と言う。父同様、絵画、

相沢五流



相沢伴主

○霞ノ関南木戸柵跡（東京都指定史跡）

昭和36年１月31日指定。鎌倉時代の建暦三年（1213年）、鎌倉街道に設置された関所の南木戸の柵跡。昭和35年発掘調査で発見され、現在、熊野神社境内参道に平行し16ヶ所、柵柱跡が鉄道の枕木により復原されている。関戸の地名もここに由来すると言われ、関所の名は「霞の関」ないし、小山田氏の領地であったことから「小山田の関」と呼ばれていた。中世の関所跡としては数少なく、地名にも残るなど、歴史上も重要な遺跡である。

○沓切坂

元弘三年（1333年）の分倍河原の合戦の時ないし、正平七年（1352年）の鎌倉への打入りの時に、新田義貞か子の義興が、この急坂を登る時に馬の沓が切れたことに由来する。

『多摩の文化財ウォッチング（解説）』（絶刊）
ノ多摩　市教委

阿弥陀三尊来迎板碑（関戸６－12－１・多摩市教育委員会）

これは鎌倉街道に面した小山家の裏山から出土したもので、鎌倉時代末期の元亨３年（1323年）癸亥八月日の紀年銘がある。一番上に天蓋、その下に雲に乗った阿弥陀如来と観音菩薩と勢至菩薩が彫ってあり、当時の人々の熱烈な浄土信仰がうかがえる板碑である。

関戸古戦場

関戸の北方、多摩川の南岸で当時の河原一帯をいう。元弘３年（1333年）鎌倉幕府打倒の兵を挙げた新田義貞は、５月８日上野国新田庄を出発し、小手指原（埼玉県所沢付近）で幕府軍を破り、勢いにのり鎌倉街道を南進し、15日、分倍河原で北条泰家率いる幕府軍と対戦したが破れた。しかし、三浦義勝の応援を得た新田軍は、16日朝、多摩川南岸関戸付近の幕府軍陣地を攻撃し、前日の勝利に油断していた幕府軍を敗走させた。北条泰家も関戸付近で討たれそうになり、家臣の横溝八郎や安保道堪などの奮闘でからくも脱出した。この後、新田義貞は一気に鎌倉を攻め、北条高時を討ち鎌倉幕府を滅ぼした。

今日では、多摩川の位置も変わり、戦場であったあたりも住宅地となっているが、横溝八郎、安保道堪、無名戦死の墓と伝えられているものが旧鎌倉街道沿いに残っている。

関戸文書（関戸６－12－１・多摩市教育委員会）

多摩市に現存する唯一の中世資料で、後北条氏時代の関戸宿及び関戸郷における民政のあり方を示す貴重な資料である。「松田盛秀判物」と「松田憲秀印判状」の２通の文書からなっており、前者は、当時の関戸郷の代官である松田盛秀が、地元の有力者有山源右衛門を関戸の問屋に任命した文書であり、後者は関戸郷における新田開発と７年間の年貢及び諸役の免除に関する文書である。

（昭和59年７月13日指定）

調布玉川惣画図（関戸６－12－１・多摩市立図書館）

縦30cm、長さ1,335cmの巻物。関戸村の文化人相沢五流が、多摩川流域を調査・写生したものをもとに、画師の長谷川雪堤に依頼して制作した木版墨刷画で、多摩川上流から河口に至る両岸の景観が克明に表現されている。江戸時代後期、弘化２年（1845年）ごろの作品。現存する他の流布本が、河川部分に青一色を刷り加えた墨刷本であるのに対して、本資料は版刷りの上に筆彩が施されている唯一のものである。筆彩は、版行時または、それに近い時期の所産と思われる。

多摩市の歴史・文化に関係の深い資料として貴重である。

（昭和63年11月１日指定）

霞ノ関南木戸柵跡（関戸５－35－５）

昭和36年の都の史跡に指定されたもの。鎌倉時代の建保元年（1213年）、鎌倉街道に設置された関所の南木戸の柵の跡で、熊野神社境内の参道に平行して16か所の丸柱跡が残っており、現在はその跡が丸木で復元されている。

この関所は、国や都の境に置かれた通行人の調査や通行税を取り立てた普通の関所以上に、鎌倉防衛という軍事上の意義が強かったと思われる。江戸や川越方面に政治の中心が移ってしまうと、鎌倉防衛という意義も薄れさびれてしまった。

『市政概要』2003 多市

延命寺の戦死者供養

延命寺　時宗。元禄15年（1702）遊行第48代賦国上人により創建。元は無本寺で、鎌倉時代に旅行者の安全を祈念した地蔵尊を祭った一寺といわれる。第４代春登上人は有名な国学者で、「万葉用字格」等を著している。本尊は阿弥陀如来。（☞関戸）

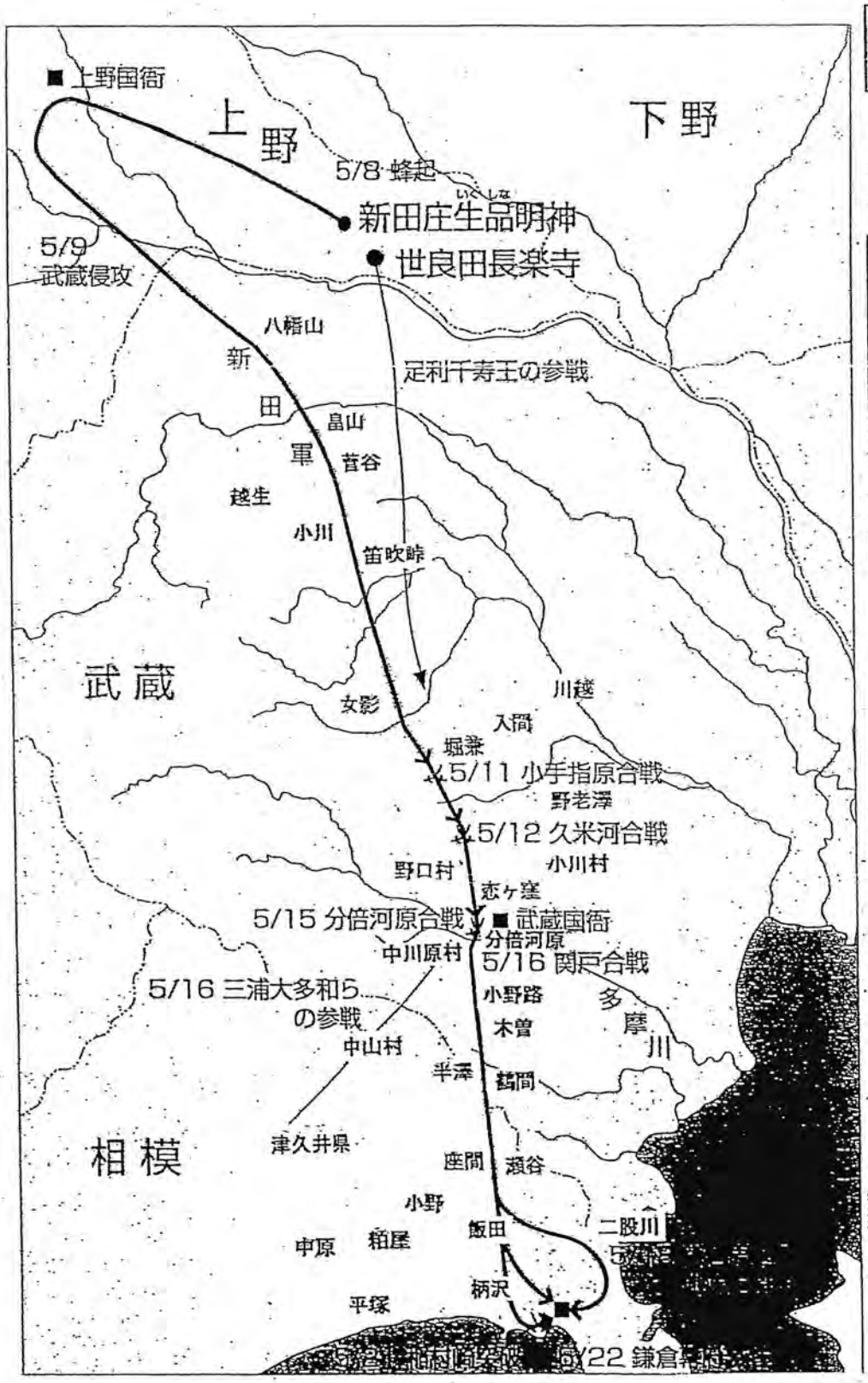
①より

延命寺では、平成9年（1997）から毎年5月17日になると、横溝八郎の墓の供養を行っています。通常、関戸合戦は5月16日とされていますが、延命寺に残る横溝八郎の位牌には5月17日と書いてあるため、位牌に書かれている日付に従っているのです。

④ 特別展
関戸合戦
多摩市関戸に残る中世の伝承とその背景
編集・発行　パルテノン多摩

2007年

資料２　　元弘３年（1333）の鎌倉攻めの推移



3月11日
新田義貞が綸旨を得る
後醍醐天皇の綸旨（または護良親王の令旨）を得る。

↓

5月8日
新田義貞の挙兵
生品明神にて挙兵する。

↓

5月9日
新田軍、武蔵に入る。幕府、入間川へ向けて兵を出す。

↓

5月11日
小手指原の戦
幕府軍は、新田軍の予想以上の大勢に驚く。日が暮れ人馬も疲れたので、戦は翌日に行うことにして、新田軍は入間河に、幕府軍は久米河に陣を取った。

↓

5月12日
久米河の戦い
再び新田軍、幕府軍が戦う。幕府軍は分倍河原に退却、新田軍は久米河に陣を置く。

↓

5月15日
分倍河原・関戸の戦い
幕府軍、恵性を大将軍とした援軍を分倍河原によこす。それを知らずに攻めた新田軍は劣勢に立たされ、堀兼に退却する。

↓

5月16日
分倍河原・関戸の戦い
15日晩三浦軍が、新田軍へ参陣し、16日寅刻（午前４時）新田軍が攻め始める。前日の勝利に油断し、三浦軍を自軍の援軍と勘違いした幕府軍は、敗れ、鎌倉を目指して退却。関戸付近で恵性も討たれそうになったが、横溝八郎・安保入道が奮戦（討死）した結果、恵性は鎌倉まで戻ることができた。

↓

5月21日
稲村崎の潮が干き、新田軍が海を渡る。

↓

5月22日
北条一族の滅亡
東勝寺にて、北条高時一門が自害する。

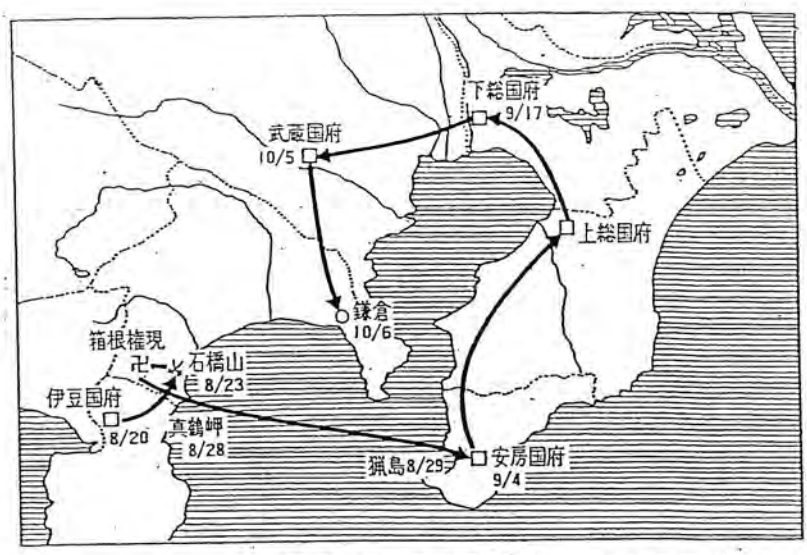


図5－7　源頼朝の進路　「多摩市史 1」

2008 小島政孝「小田原城と御家人御所御番」資料より

元和3年（1617）
徳川家康の御草摺の経路

刻経塔

天明3年（1783年）造立。「右ふちゅう道、左八わうじ道」と書かれた道標。施主は五流の父、了栄。江戸名所図絵にも見られる。

コラム 徳川家康霊柩（れいきゅう）と関戸と有山氏

元和2年（1616）4月に駿河で逝去した徳川家康の柩（ひつぎ）は、遺言に従って、翌年、久能山から日光に移されました。この移送についても関戸には古文書と伝承が残っています。

まずは古文書を見てみましょう。元和3年（1617）に出された文書には、久能山から善徳寺（静岡県富士市）、三嶋（同三島市）、小田原（神奈川県小田原市）、中原（同平塚市）、木曽（東京都町田市）、府中（同府中市）、仙波（埼玉県川越市）、忍城（同行田市）、佐野（栃木県佐野市）、鹿沼（同鹿沼市）、日光（同日光市）というルートが記されています。

関戸は木曽から府中に至る間の宿駅となっており、人馬の継立（つぎたて）（取替）が求められていたことがわかります。現地では関戸から府中に行く際に、多摩川の川止めに遭い、一行は一泊したという伝承が伝わっています。伝承では、一泊したとも、休憩したとも言われており、現地には、祠（金山大権現）が建てられています。この祠は現在も地域の方々の間で守られています。

交通の要衝・関戸を感じさせられるエピソードともいえるでしょう。古文書には「有山源右衛門元貞」という人物の名があり、戦国時代の有山氏との関連も考えさせられます。

現地に建てられた石祠
平成19年(2007)撮影
祠には「奉建立石宮　金山大権現」と彫られている。

小山玉石著「関戸郷史集」（私家版）によれば、「文化一年七月吉日」という文字も彫られていたという。

2007 「関戸郷史」 小山氏 多摩

〔関戸地区〕

『多摩市の石仏』1978 市教委

調査番号	種別	年号	碑型	銘文	所在地	備考
(95)	地蔵菩薩	寛文三年(一六六三)	丸彫立像	関戸村・寛文三年卯七月日・念仏講中	関戸小字霞ヶ関地蔵堂の中	盟約塔と共にある
(96)	庚申塔	寛文十三年(一六七三)	唐破風付角柱型	寛文十三年癸丑二月八日・奉建庚申之人族七人・武州多摩郡関戸郷・申三匹・鶏二羽・(七人氏名あり)	関戸小字霞ヶ関鎌倉街道沿	
(215)	大日如来	元禄五年(一六九二)	光背舟型浮彫坐像	奉□□・元禄五□□	関戸小字霞ヶ関観音寺の階段上右	智拳印を結ぶ
(108)	不明	享保五年(一七二〇)	角柱台座	享保五庚子年七月日・施主 萩生田氏	関戸小字霞ヶ関熊野神社入口	
(109)	庚申塔	寛保三年(一七四三)	光背舟型浮刻像	奉造立庚申供養・寛保癸亥十二月吉祥旦	〃	
(97)	写経塔	安永二年(一七七三)	山状角柱型	般若石経三界万霊等・安永二癸巳十一月日 当所 相沢性了栄	関戸小字霞ヶ関観音寺前	万霊塔も兼ねている
(98)	六観音	天明元年(一七八一)	光背型浮刻立像	ナシ	〃	如意輪観音
(99)	〃	〃	〃	ナシ	〃	不空羂索観音
(100)	〃	〃	〃	ナシ	〃	十一面観音
(101)	〃	〃	〃	ナシ	〃	千手観音
(102)	〃	〃	〃	ナシ	〃	馬頭観音
(103)	〃	〃	〃	天明元年丑七月吉日・奉建立石仏六尊・施主 相沢了栄・井上与市	〃	聖観音
(110)	馬頭観音	安永九年(一七八〇)	光背浮彫立像	良貞院日誠法師・安永九年八月十六日・施主 山角定慰	関戸小字霞ヶ関熊野神社入口	施主は関戸村の地頭
(225)	諏訪明神	天明二年(一七八二)	石祠型	天明二刁夏吉日・願主 相沢了栄	関戸小字霞ヶ関	中に丸い石が

阿弥陀三尊来迎板碑
（市指定文化財）

鎌倉時代末、元亨３年（1323年）造立。阿弥陀如来塔が掘られている。高さ12㎝、幅33㎝。

阿弥陀三尊来迎板碑・元亨三年（一三二三）
多摩市文化財指定・昭和四十九年十二月二十日
収蔵　多摩市教育委員会
高さ　一二七センチ
幅　上部　三二・四センチ
　　下部　三三・一センチ
厚さ　三・三センチ

93	刻経塔	天明三年（一七八三）	駒型	南無観世音菩薩・右ふちゅう道・左八わうじ道 天明三年卯冬・当所願主了栄	関戸バス停上	多数ある
					関戸小字河原 大栗橋際	道しるべを兼ねている
94	念仏盟約塔	寛政元年（一七八九）	山状角柱	永代融通念仏盟約塔・為父母報恩・毎月一集・朝暮十遍以上 別時正月廿三日・三月廿三日・十月廿三日・女念仏講中	関戸小字霞ヶ関 地蔵堂と並ぶ	
213	秋葉山供養塔	寛政六年（一七九四）	常夜灯	奉献秋葉宮・東海・寛政六□巳霜月吉祥□□□	関戸小字霞ヶ関 関戸郵便局そば	一〇四と並ぶ
105	地蔵菩薩	寛政八年（一七九六）	丸彫坐像	寛政八歳丙辰四月八日建□□□（四十人氏名あり延命地蔵経が刻まれ、関戸付近の曹洞宗和尚五名）	関戸小字霞ヶ関 熊野神社入口覆屋	江戸の石工の氏名あり
106	庚申塔	寛政八年（一七九六）	山状角柱	庚申塔・寛政八年丙辰　□冬・三匹猿	〃	〃
104	馬頭観音	明治三六年（一九〇三）	角柱状型	馬頭観世音・施主中村□歳	関戸小字霞ヶ関 関戸郵便局そば	秋葉山供養塔
235	馬頭観音	大正二年（一九一三）	角柱型	馬頭観世音・村中・大正二年三月・ 中村作造建之東京府南多摩郡多摩村関戸	関戸一五一三 相沢四郎庭内	旧草競馬場の近く
107	地蔵菩薩	年代不明	丸彫立像	為桃林宗梧信士菩提	関戸小字霞ヶ関 熊野神社入口	
224	供養塔	〃	五輪塔	ナシ	関戸小字霞ヶ関 鎌倉街道際がけ上	関戸合戦の無縁仏
111	庚申塔	〃	板状駒型	西念寺・三左エ門・権右エ門・伝兵衛・□兵衛・ 角左エ門・惣右エ門・佐五右エ門・庄右エ門	貝取小字十八号 公民館裏道沿	

関戸の町名の由来

「関戸」の町名は、かつて関所が設置されていた所からこの名がついたと言われています。

この関は、一般に「霞ノ関」といい、吾妻鏡によれば建暦3年（1213）「武蔵国に新しい関を置く」とあります。現在、熊野神社境内に南木戸柵跡があります。

当地は、元弘3年（1333）に新田義貞軍と北条軍が戦った古戦場として有名であり、江戸時代中頃まで宿場として大いに賑わっていました。明和5年（1768）には大火もあり、時代とともにその賑わいを失ってしまいました。しかし、今でも屋号などに名残りが見受けられます。また、多摩川の渡舟や鵜飼などでも親しまれていました。

彫刻のデザインについて

町名由来板は、「多摩市町名由来板設置検討チーム」を設置し検討を重ね、基本の形とテーマについて報告がされました。関戸の彫刻は、この報告を基に彫刻家の渡辺尋志氏により制作されたもので、設置場所である九頭龍公園にちなんで、「龍」と「如意珠（願いごとがなんでもかなうという龍の持つ珠）」をテーマとしたものです。植栽にもリュウノヒゲを使用し、夜間にはライトアップを行い雰囲気を盛り上げています。

「町名由来板シリーズ」多摩市

制作者　渡辺　尋志
設　置　平成4年2月
場　所　九頭龍公園内（多摩市関戸4-6-4）

九頭竜神社　祭神は建御名方命。多摩川の上流から、ご神体が流れついて、ここに留まったのを祭ったという。多摩川の水神として崇敬を集めている。

①『多摩市の社寺めぐり』1982 市教委

九頭龍神社

大栗橋の北側の大河原の地に鎮座していたが、数年前に現在地に遷宮された。祭神は、建御名方命（たけみなかたのみこと）。

多摩川は、古くから洪水のたびに氾濫から氾濫を繰り返し、そのつど川の流れは変わり、河原に中洲ができたりして地形を変えてきた。近いところで明治四十三年の大洪水が有名で、そのすさまじさにおいて今でも語り草になっているほどである。このおりには関戸にある耕地はほとんど水没したというが、この九頭龍神社はこのおりにも水没を免れたという。

ところでこの神社は、中世のある大洪水のおりに、川上からこの大河原の地に九ツの頭をもつ龍のようなものが流れ着いた、それを御神体として、洪水を鎮めるために祀ったのが、始まりであるという。その由来を考え、因縁を説く人が少なくない。

祭日が、以前は九月一・二日であったのも、二百十日の台風にちなんだものであろうともいう。また、境内には時々龍に似た赤い兜をかぶった白い蛇が出たという。

それゆえ、この神社は大水を鎮める神として関戸の人々には信仰されてきた。近年は、多摩川の水神として、広く崇敬を集めている。また、かつては子どもの歯痛を和らげる神として尊信され、祈願して治ると、お礼参りのおりには山の萩を束ねたものを供えたという。

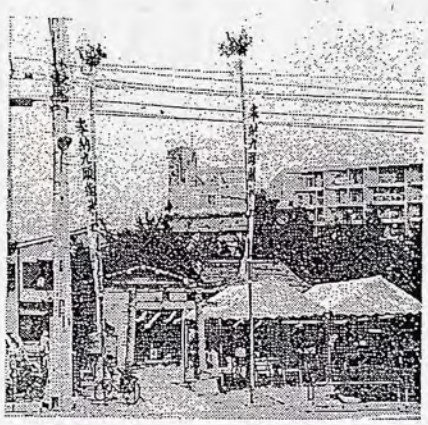


写真1―2―3　九頭龍神社本殿

＜氏子組織・祭日＞

熊野神社・九頭龍神社同様の氏子組織が神社の管理・祭祀にあたっている。祭日は九月二日であったが、現在では市の統一祭日である九月第二日曜日に変更している。

②『多摩市の民俗』多摩文化叢書(7) 1993 多摩

多摩市の年表

時代	西暦	日本の出来事	多摩市付近の出来事	世界の出来事
旧石器		日本列島の誕生は約１万年前 約60万年前　列島に人類が登場 打製石器の使用・狩猟・採取生活 岩宿遺跡（群馬県）	＊数万年前 多摩丘陵に人が住み始める	＊地球の歴史を1年に換算すると、人類の誕生は12月31日午後４時23分（今から400万年前）
縄文	約１万年前 紀元前３０００年	縄文土器・磨製石器の使用 日本列島の形成 三内丸山遺跡（青森県）	＊各地に縄文人の集落が増加 （竪穴住居跡）	氷河時代終わる 四大文明の発生
弥生	紀元前２・３世紀 紀元前後	大陸から稲作の伝来 大陸から金属器の伝来 弥生土器の使用 大規模な農耕集落が栄える むらから小国へ	＊多摩市「谷戸」の周辺で生活が始まる	BC２２１ 中国：秦の始皇帝中国統一（万里の長城） BC202　漢の中国統一 BC27　ローマ帝国起こる
古墳／飛鳥	239 421 538 593 645 701	邪馬台国女王　卑弥呼　魏に使いを送る 前方後円墳（畿内） 大仙古墳の築造 仏教の伝来 聖徳太子が推古天皇の摂政になる 大化の改新（蘇我氏滅亡） 大宝律令の完成	＊大栗川沿いの台地に和田古墳群（稲荷塚古墳＝八角形墳）が作られる	395　ローマ東西に分裂 562　新羅が加羅を滅ぼす 589　隋が中国を統一 618　唐が中国を統一 661　イスラム帝国の成立 676　新羅が朝鮮半島を統一
奈良	710 741 743 752	平城京に遷都 聖武天皇が国分寺・国分尼寺の建立を命ず 墾田永年私財法 東大寺大仏開眼供養 （万葉集の完成）	＊多摩市付近は、武蔵国の多摩郡と呼ばれる ＊武蔵国分寺の造営。そのため、多摩丘陵一帯で瓦が焼かれる　（南多摩窯跡群） ＊小野神社（多摩一の宮神社）に朝廷への造物が捧げられる	
平安	794 894 1016 1167 1185	平安京に遷都 摂関政治の始まり 遣唐使の廃止 （かな文字の使用） 藤原道長が摂政となる 武士の成長（源氏と平氏） 平氏の全盛（平清盛） 平氏の滅亡	＊小野牧が御牧となる ＊武士の集団（武蔵七党）が成立	イスラム帝国の全盛 936　高麗が朝鮮半島の統一 979　宋が中国を統一 1096　第１回十字軍
鎌倉	1192 1274 1281 1333	源頼朝が鎌倉幕府を開く 北条氏による執権政治 元寇（文永の役） 元寇（弘安の役） 鎌倉幕府の滅亡	＊鎌倉幕府の防衛を目的に、鎌倉街道に「霞の関」を設置　1213年（建暦年） 1322　関戸の阿弥陀三尊来迎、板碑が作られる 1333　分倍河原・関戸の合戦	1206　モンゴル帝国の成立 1271　モンゴルが元となる。（マルコ・ポーロ　元へ） 1279　元が中国を統一

室町	1338	足利尊氏が室町幕府を開く		
				1368　明が中国を統一
	1392	足利義満が南北朝の統一	1383吉富郷（関戸）、足利氏満により鶴ヶ丘八幡に寄進	1392　高麗が滅び、朝鮮国が起こる
				ヨーロッパ　ルネッサンス
	1467	応仁の乱（下剋上の風潮）		
				1492　コロンブス西インド諸島に到達 大航海時代（新航路の発見）
				1517　ルターの宗教改革
	1543	鉄砲伝来		
	1549	キリスト教の伝来		
				1558　イギリス　エリザベス１世即位
	1573	織田信長　室町幕府を滅ぼす	16世紀中ごろ　関戸郷で六斎市が開かれる	
安土・桃山	1590	豊臣秀吉　全国統一	1590　関戸郷、徳川家康の支配下で山内氏の所領となる	（絶対王政の始り）
			＊16世紀末　関戸郷や連光寺郷などが解体し、いくつかの村に再編成	（ヨーロッパ諸国のアジア進出）
			1594　和田・一ノ宮・関戸村で検地	
	1600	関ヶ原の戦い		
江戸	1603	徳川家康　江戸幕府を開く		
			1605　甲州街道の整備進む。そのため、多摩市付近の村は日野や八王子宿にむけて人馬の補充（助郷役）を担った。	
	1639	鎖国の完成		
				1644　清が中国を統一
				1661　フランス　ルイ１４世の絶対王政（ベルサイユ宮殿）
	1685	生類憐みの令：徳川綱吉の政治 （元禄文化の全盛）		
				1688　イギリス　名誉革命
				1689　権利章典
			＊この頃から多摩丘陵に雑木林が作られ、「黒川炭」を江戸市中にだす。八王子に絹の市がたつ。	
	1716	徳川吉宗の「享保の改革」		
	1732	享保の大ききん	1746　相沢五流、関戸村に生まれる	
			1768　相沢伴主、関戸村に生まれる	
				1769　ワット蒸気機関の改良（イギリスで産業革命）
	1772	田沼意次の政治 （杉田玄白「解体新書」）		
				1775　アメリカの独立戦争
	1782	天明の大ききん		1776　アメリカの独立宣言
	1787	松平定信、「寛政の改革」		1787　アメリカ合衆国憲法制定
			＊多摩丘陵で、蚕のえさとなる桑畑が増えた	1789　フランス革命「人権宣言」
		（外国船出現と北方探検） （化政文化の全盛）		
				1804　ナポレオンが皇帝になる （産業革命がヨーロッパに波及）
	1825	外国船打払令		
	1833	天保の大ききん	1845　「調布玉川惣画図」完成 （「のびゆく多摩」の表紙絵）	
	1837	大塩平八郎の乱		（列強のアジア進出）
				1840　アヘン戦争
	1841	水野忠邦の「天保の改革」 （列強の開国要求）		1842　南京条約
			＊1800年前半、多摩村８ケ村の大部分は天領となる。	1851　太平天国の乱
	1853	ペリーの来航		
	1854	日米和親条約		
	1858	井伊直弼が大老になる 日米修好通商条約：安政の大獄		1858　ムガル帝国（インド）の滅亡
	1860	桜田門外の変	＊生糸の輸出で、横浜にむけての「絹の道」（輸送路）ができる。	1861　リンカーンが大統領になる
		（尊皇攘夷運動の高まり）	＊物価が高騰し、一揆が多発する	南北戦争
	1863	薩英戦争		
	1864	第一次長州戦争 （倒幕運動へ転換）	1866　武州世直一揆がおこる	
	1866	薩長同盟・第二次長州戦争		
	1867	大政奉還・王政復古の大号令	＊連光寺の名主、宮澤家等が政治の動きに敏感に対応する	